

研究の概要

重症心身障害児(者)の多くが危険回避や予知が不可または困難なことが多く、危険を予防するため患者に対し身体拘束を行っている。昨年度当病棟看護師に対し行った身体拘束に対する意識調査の結果から、9割身体拘束解除を行いたいと感じている中、危険回避や予防のために実施せざるを得なく、個々の目指す看護が行えていない。また、患者自身が安心した入所生活が送られていない可能性がある。今回、身体拘束に対しての実態調査を行い、拘束解除に向けた課題を見いだす。

研究期間

承認日より2022年11月末日まで

研究機関の名称及び研究機関の長

独立行政法人国立病院機構山形病院
院長 川並 透

研究責任者の氏名

看護部3病棟
看護師 菊池 希

オプトアウト

特記なし